

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム エルダー介良

ユニット名 1階

自己評価実施年月日 平成 19年 7月 20日

記録者氏名 西森 吉子

記録年月日 平成 19年 7月 25日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	今まで以上に地域と交流を深めて具体的に実行するようにしたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	行動目標に添って出来ているか見直しを行い取り組んでいく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	年2回の家族会で伝えるようにし、エルダー前へ掲示板を設置し地域と理念の浸透を図るようにしていく。
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	地域に出向く機会を作り、触れ合う場を作っていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	町内会の活動に参加し、交流の場を広げていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>今現在は、ゴミステーションの増設場所提供としているが今後は、掲示板の新たな設置や町内会とのより一層の連携を深めるようにし、更に地域に貢献していきたいと考えている。</p>
0			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>改善計画シートを作成し、質の確保と向上に努めていく。</p>
8	<p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>今後は会議の度に次回の会議で意見要望を出して頂くようにする。地域の町内会長に参加を働きかけ、より一層の意見を貰っていく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>今後については、各種書類の提供をとらえ高知市担当者との連携を深めていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>パンフレットを置いていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>今後、高齢者虐待防止関連法に当たるケースがあれば監督官庁と連携を取るようにしていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や書類の手続きの経過の中で十分に説明をしながら、ご家族や本人の意向を聞いて対応している。	○	現状で特段の問題はないが、今後も理念に基づいて利用者家族に納得する説明を行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や不満、意見を言えるように各ユニットに表示している。玄関には苦情箱を設置している。	○	更に利用者本人の意見や不満を職員並びに外部へ表せる機会を話し合い検討していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族の面会時には利用者の生活状態を報告し、希望なども聞くようにしている。状態変化のある時は必ずきめ細かく連絡報告している。毎月のお便りにも写真や行事、個々の生活のこと、金銭報告などし定期的にサインも頂いている。	○	異動についてはホームのお便りで報告していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から家族には何でも言いたい事が言える雰囲気心がけ、訪問時などにも話せるように留意している。提案についてはミーティングなどで検討し、反映出来るようにしている。	○	今後はお便りや家族会を通じて再度意見や不満、苦情を言えるようにしていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者とも密接にコンタクトを取るようになっている。	○	運営者は時々訪問して話しを聞く機会を持っているが今後は更に増やすようにしていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化に合わせ柔軟な対応をしたローテーションを組んでいる。	○	平成19年度から各ユニットの人員を増強したが、今後は人員増強が利用者のサービスにより有効に働くよう必要に応じて勤務体制を調整していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員の定着率は良いが異動も最小限に留め利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	今後も異動、離職を最小限に抑える為の対応を行う
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年計画をたて、職場の学習、習熟度に合わせ研修を受けている。研修を受けた者から研修内容について再度勉強会を開き、職員が理解出来るようにしている。研修報告レポートを提出している。母体の高知鏡川病院から講師を招き新人研修、テーマを決めて勉強会を開いている。	○	施設外研修を受ける度に報告研修会を開き認知症の理解向上に努めていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今までは出来ていなかったが、今年は地区の勉強会に参加し地区のことについての情報を知る機会が出来た。	○	今後は他施設の相互訪問の機会を増やし、他事業所の良い点を積極的に取り入れていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦会だけではなく中での問題点について随時運営者に直接連絡が取れる体制をとっている。	○	プライバシーに配慮しながら各職員からあらゆる機会をとらえて職員に対する理解を更に深めていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得を奨励するだけではなく、事務長、看護部長など複数の指導的立場の者が各自の職能評価を多面的に行っている。	○	管理者だけではなく、職員全員がレベルアップ出来るよう努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の相談があった時には、見学や面談時に本人に会って本人の思いや状態について理解し受け止めるようにしている。入院している方については相談室、理学療法士、医師と連携を取り話しを聞いた。	○ ケースによっては家庭訪問、医療機関からの情報収集をしていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用についての相談がある時は。見学に来て頂き、心身状態や困っている事、不安な事などを聞いて理解するようにしている。	○ 今後も時間を取り家族の困っている事、求めている事について十分聞いた上で、相談にのっていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に詳しく情報収集し適切なサービスを見極め必要に応じて他のサービス期間に繋げるようにしている。	○ 地域包括支援センターと連携が出来ているが地域のケアマネジャーとも連携していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時や面接時には、利用者さんと職員を交えて本人にホームの生活を体験して頂いている。	○ 見学時に入居希望の方だけを他入居者と一緒に過ごして頂き不安な表情や戸惑ってないか上手くコミュニケーションが図れるか状態を確認して家族と相談している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は共に暮らす者同士として喜びや悲しみ不安など共感し、支えあう関係を築くようにしている。利用者さんから季節の行事などについて教えてもらうようにしている。	○ 利用者さんの力が発揮できるような場面作りを多くしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはその時々本人の状態を伝え、家族の思いに寄り添いながら、共に支えあう関係作りに努めている。	○	家族との情報交換をより強くするようにし、本人の生活の幅を広げていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の状態をこまめに報告、相談したり、本人や家族の思いを受け止めながら両者の思いを繋げるような働きかけをしている。	○	ご家族との外出を進めたり行事への参加を勧めていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お話しの会へ定期的に参加するため誘いに来て頂いたり、手紙を交換しあい、継続的な交流ができるよう働きかけている。	○	今後も継続できるように支援していく。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を情報収集し職員同士が共有している。個別に話を聞いたり相談に乗るなどしながら、利用者が支えあって過ごせるように職員は支援している。	○	利用者間の関係理解に努め、職員が調整役となれるようにしていく。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了後も面会に行くようにしてその後の様子をうかがっている。	○	継続的な関わりを必要とする利用者家族には、継続してフォローをしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での言葉掛けや表情などから、それとなく確認するようにしている。	○ プランの変更時に聞いているが、普段の生活の中で確認するようにしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中で出てくる言葉やご家族、面会の方との話の中で少しずつ知るようにしている。	○ 今後も家族や友人などの訪問の機会を通じて折に触れ、過去の具体的な情報を得ていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	職員全員で利用者個々の生活リズムを理解しながら、行動や表情などから全体的に理解するよう努めている。	○ 更にチームで連携しながら、利用者個々の状態の確認をし把握するようにしていく。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や思いを反映出来るように日ごろの言動などから察知するようにしている。カンファレンスやモニタリングを毎月行い他の職種も含め介護計画に活かす様にしている。	○ 更に本人がその人らしく暮らせるための課題やケアのあり方について家族や関係者などと話し合っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況について期限までに見直し検討を行い、状態変化のある時や必要に応じて早めの変更をするようにしている。	○ 更に現状に即したプランになるよう、ご家族、本人必要な関係者と話し合っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する為に、食事や排泄入浴介護計画の実践の記録をとり利用者の日々の暮らし方、身体的状況や変化について個人記録に記入して勤務に入る前に確認するよう徹底し、介護計画にも活かすようにしている。	○	今後もチェック表で確認し、職員間で共有するよう継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は介護保険法に基づく多機能性を有してはいないが、一時的な入院における居室の確保と利用者が不安なく当グループホームで生活できるよう支援している。	○	医療連携体制加算の指定は受けていないが実質的な医療連携体制を進めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の高校のボランティアや年2回の消防訓練、警察と連携し何かあれば対応できるように出来ている。	○	定期的な消防訓練、近隣の高校生のボランティアを受け入れている。近隣との資源をと共存していく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当事業所の位置から考えて、グループホーム以外の官、民のサービスを利用する機会を設けている。	○	研修時、他の事業所のケアマネジャーとの意見交換をし、情報交換を集めている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在必要がない為、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントで地域包括支援センターとの協働はしていない。	○	将来的には必要となる可能性は否めないなので、地域包括支援センターと蜜に関りを持って行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	今後もご家族の希望に添うよう支援していく。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	ご家族の同意を得ているが時々確認を行っている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	具体的なアドバイスを受けた時は実行している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	今後病院関係者、家族と連携、情報交換し早期退院を図っていく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化や終末期の有り様は一人ひとり内容が違うので、より細かく対応出来る様、意思の疎通を図っていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期の有り様は一人ひとり内容が違うので、より細かく対応出来る様、より意思の疎通を図っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>別の所へ移り住む時は家族及び本人に関わる役所、病院関係者と十分な話し合いを持ち情報交換に努めている。入院する時は介護要約を送り、又入院先へ赴き医師、看護師、相談室のいずれかと情報交換している。</p>	○	更により良い機会をとらえて模索していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>個人情報の漏洩防止については全職員に徹底しており就職の際にサインを貰っている。又写真についても外部に公表して良いかどうかを家族に取り全職員に周知している。又、ミーティングの際に個人情報が守れているか職員間で話し合いを持っている。</p>	○	ミーティングの際に意識の向上を図り折に触れ個人の尊厳を図っている。勉強会に参加していきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者に合わせて言葉掛けを行い決めにくい方についてはどちらか選ぶようにしてから決めて頂いている。</p>	○	利用者主体となる場面を多く作り支援していく。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>朝は本人の希望に添って起床や食事を取って頂いたり、散歩や作業など1日の流れはあっても利用者本意の気持ちを優先するようにしている。</p>	○	今後も利用者さんの意思を尊重しながら対応していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>一人ひとりの生活習慣に合わせて支援をし、行事や外出など化粧やおしゃれを楽しめるよう支援している。又、美容院などは家族と共に外出時に行ったり、ご家族の来訪時に切る方もいる。又、月1回の理容士の来所時に自分の好みを言って切っている。</p>	○	その人らしいおしゃれの支援が出来るよう職員間で共有し、ご家族と相談しながら支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	配膳を楽しみにしたり、自分以外の職員の食器を洗うのを楽しみにされている方もいるため今後も無理にならないようお願いしていく。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	他の利用者に影響がないようにしながら利用者の希望を尊重し対応していく。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	必要な利用者には、プランに入れて実施し職員間で共有支援している。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	入浴を嫌がる人に対しては言葉を選んで勧めたり、時間を置いて再度言葉かけを行うなどしている。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	状態変化のある時等生活リズムの変化に合わせて職員間で共有し対応していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	本人の楽しみごとや役割を引き出すよう場面作りを行っていく。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額は手元に持っている。家族よりお金を預かって管理している人でも、外出時には自分で払う事ができるようお金を手渡すなどしている。	○	今後も継続して買い物が楽しめるように支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の意向に沿って、散歩や外気浴、買い物などの支援を行っている。又ご家族の協力がある時は一緒に行けるようお願いしている。	○	今後も個別性を尊重して計画を立てていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望がある時は、職員の勤務の調整を行い出かける事が出来るようにしている。又家族の協力も依頼している。	○	ご家族との連携を図り希望や思いに添った支援を し実現していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気兼ねなく電話が出来るよう職員から言葉かけし、手紙を書く方にはポストまで同行たり年賀状を書く為の支援も行っている。	○	もっと多くの方が暑中見舞いや、年賀状を出すように支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも来て頂き、ゆっくり過ごして頂けるような雰囲気作りを心がけ気兼ねなく過ごして頂いている。	○	希望がある時は本人や家族の希望に添うように していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の人はいないが管理者は「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解できている。	○	管理者より折にふれ身体拘束の話しを職員にして いく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	職員間の連携を蜜にして利用者さんの行動に気を配っていく。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	定期的に巡視することで利用者さんの安全を確認していく。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	今後も利用者さんの状況に合わせて危険と思われるものについては職員間で検討し家族とも相談していく。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	リスクに対する勉強会を法人看護部長を迎え行っている。事故を想定した勉強会を行い緊急時に備えるようにする。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	救急救命法受講し、消防訓練に参加しスムーズに行動できるようにしていく。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	高知市の災害担当係の方より具体的情報（地震時）を提供してもらう。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	○	一人ひとりのおこり得るリスクについて職員間で話し合い家族と連携していく。
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	職員間の連携を取り、異常を早く察知するようにしていく。
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	月の初めに薬のマニュアルについて全員で確認しているので今後も継続していく。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	体調不良など身体を動かすことが少ない時の対応の勉強会を持っていく。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	磨くこと、磨いた事を忘れてたりする人に対しては、言葉掛けの共有をしてスムーズに出来るようにしている。
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	水分量の少ない方について、職員間で検討、共有した対応をしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	おこりうる可能性のある感染症に関する細かいマニュアルを作成し予防対策に努めている。インフルエンザの摂取は利用者及び家族に同意を頂き、職員と共に受けている。ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用している。	○	感染症の発生する時期はマニュアルを読み返し学習している。又、感染症についての学習会がある時は職員が参加するようにしている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所の水まわり、冷蔵庫は清潔を保つよう職員間で取り決めて行っている。食材の鮮度や状態を確認して期限までに消費している。食器は利用者さんが一度洗った物を食洗機に掛けている。冷蔵庫の掃除は毎週火曜日に行っている。	○	ミーティング時や送りを通じて食中毒などの衛生管理の重要性を職員全員に再浸透させていく。
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に花のあるように季節感のある明るい花を植えている。玄関先にはベンチ、玄関には花を生けて、季節感を感じていただくようにしている。	○	玄関の壁を有効に使い作品などを展示していく。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強い日差しのあるときはカーテンをしたり、本棚や植木、切花、鉢花を置いて光の調節や季節感を取り入れている。又手に取ったり居心地良く過ごせるよう雑誌やお手玉など置くようにしている。	○	季節感のある飾付けや利用者と一緒に作った作品の展示や写真など生活感のあるものに変えていく。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置き、食卓近くにもソファを設置している。利用者さん同士座って仲良く過ごされている。	○	一つソファが増え、皆で集まるようになり、利用者同士仲良く過ごすことが出来ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使っていた物を持参されたり置 くスペースを見ながら増やすようにしている。	○	利用者の状態に合わせた物の量になっているか毎 日の掃除の時などに注意し安全を確認していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気は小まめに行い居室には温度計を設置し、室 温調整を行っている。日中は居室訪問時に気をつ け、夜間は確認し調節している。	○	部屋の向きにより、時間帯により居室温度が違 う為、換気や冷暖房の調節に配慮し気持ち良く生活 できるよう援助していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	好みの物を置きながら、危険を伴うような時は利 用者や家族の承諾を得て移動したり、危険を取り 除くようにしている。	○	利用者の状態に合わせた安全確保をするための見 直しを職員間で行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	認識できない人には貼紙をしたり、時間がかかっ ても習慣になるように繰り返すことで自分の ものにできるように支援している。	○	生活環境に慣れ認識できるよう貼紙や言葉掛けを 行い生活の幅が広がるよう支援していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	プランターに球根や花を植えたり利用者が日常的 に活動できるようにしている。又玄関先にベンチ を置いて利用者が話したり涼んだり出来るよ うにしている。	○	散歩が行けない人に対しても時間を選んで玄関先 に出ることを勧め外気浴をして頂いている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

天気の良い時は毎日散歩に行くことを心がけ、体調変化のない時でも小まめに家族と連絡を取り、連携を図るようにしている。